

第6 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

■日時：平成27年10月7日（水）午後1時30分～午後4時00分

■場所：吉野町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：第6回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：

- ・こんにちは。第6回目となりまして、今回は総合戦略（素案）につきワールドカフェ方式で、議論をして頂きたい。ワーキング形式により、出来るだけ多くの方の声を聞いて頂いて、広聴、実学、現場重視の視点で議論を行っていく。個別で最適化されたものを全体の最適化に繋げて欲しい。ワールドカフェ方式での議論を通じて、別の視点から見た意見等を総合戦略（素案）修正の参考にしたい。よろしくお願いします。

3. 案件

(1) 前回の議事録の確認

■事務局より、資料1をもとに説明。

- ・本来、議事録については、事前配布されるべきであるが、第5回会議事録については、当日配布となったため、次回会議までにご確認していただき、次回の会議以降公開対象としてよろしいか。→全委員異議なく、承認。

(2) 吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

■事務局より、資料2及び、ワールドカフェ方式についての説明。

- ・資料2の総合戦略（素案）については、総合戦略（たたき台）の内容を前回会議でのご意見を参考に、各参事と検討した上で、修正したものである。ワールドカフェ方式での議論を通じて、個別のワーキンググループでの視点とは違う、全体視点での議論をしていただきたい。今回の会議で出た意見を基に次回推進会議までに、現在の総合戦略（素案）の修正、検討を行う。

ワールドカフェ方式＝総合戦略における4つの基本目標ごとに4グループを作成。グループごとにリーダーを選出。15分毎にリーダー以外の方はグループを移動して、基本目標の内容について議論。最後、各グループのリーダーが意見をとりまとめの上発表。

■ワールドカフェ方式での議論を通じて出た各基本目標に関する意見をリーダーが発表。

◎基本目標① 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する。

- ・吉野町の業種の中には様々な業種があるが、これにつき、地場産業という言葉で表現しがちであるが、これは地場産業ではなく、地域産業である。商業、工業に携わる方等様々な業種がある。
- ・様々な業種ごとでの、横の連携が必要である。
- ・先日、セミナーに参加したが、様々な業種の方がおり、新しい発見があった。そのような機会を多く持ちたいと感じた。

- ・重要業績評価指標の中の、割り箸生産量については、毎年、県の奈良の木ブランド課の方に20年間ほど報告しており、ある程度のデータは取ってあるが、木材・木製品出荷額の基準値、目標値について、これは製材工業協同組合の数値であり、全体的な数値ではないのではないかとの意見があった。
- ・木材関連産業に関する主要な取り組みの中に「吉野の地域産業を組み合わせ新しい吉野の住環境をパッケージ化し、自然と調和した、体にも優しい吉野材の活用促進を行います。」という記載があるが、これは今のところ、製材組合が行っている事業でもないし、製材組合以外の方の今後の取り組みでもある。この部分と、指標設定における木材・木製品出荷額との整合性がとれていないのではないか。
- ・基本方針③地域産業の担い手確保と地域人財の養成につき、安定した雇用を生み出すためにも様々な取り組みが必要であると感じる。
- ・バックパッカー等の吉野山への雇用をとの意見があった。
- ・商売を行っていくためには、やはり雇用が一番の課題になると思うので、それを一押しするような施策を行政で考えてほしい。
- ・事業継承のWGより、今後商工会の会員を対象にアンケートを取るとの話を伺ったが、製箸組合の会員37社の中でも、3分の1が商工会に入っていない。商工会を対象とするアンケートだけでは吉野町内の事業者を網羅するには片手落ちになるのではないか。

◎基本目標② 新しい人の流れをつくる

- ・固有名詞である「上市まちづくりの会リターンズ」を空き家コンシェルジュに変更して欲しい。まちづくりの会リターンズについては実績がまだこれからの段階であるので空き家コンシェルジュの方が良いのでは。
- ・基本方針②若い世代の転出の抑制・歯止めの主要な取り組みの中の5行目、6行目に「～の向上」という文言が二回出ているので修正願いたい。
- ・基本方針①定住・移住の促進、主要な取り組みの中に「『吉野の暮らし』の情報発信を行います」とあるが、現在メディアプロデューサーよる、HP、マスメディアを通じた取り組みが行われていると聞いた。それにつき今までは日本的にも有名な春の桜、木材関連の情報発信が主であったが、今後は様々な暮らしの情報等も集約した形で情報発信して行って欲しい。
- ・全国的、世界的情報発信も視野に入れた取り組みについても期待したい。世界発信するのであれば、HPにつき英語表記も視野に入れていく等の取り組みも必要になってくるのではないか。
- ・内面的な情報発信についての話もあった。近所の高齢者が最近施設に入られた。そうすると、草刈りや土地の維持が懸念されるが、地域おこし協力隊の方が協力して、作業を行ってくれている。また、無料のコンサート等も開催してくれていると聞いた。町内に向けて地域おこし協力隊に関する取り組みも発信していく必要があると思う。
- ・また、地域における人の繋がりも大切であり、移住して下さった方等が、隣近住民と付き合い、温かい関係性を築くことが出来るような取り組み、情報発信も検討すべきである。
- ・空き家バンクについて、全国的に展開されている施策であるが、その中でも吉野町独自の視点を持った施策が必要になってくるのでは。

- ・吉野町から、他所に転出した方については、原因があると考えられる。例えば、ぼっこん便所について懸念されている方がいたとの話があった。そういった方のために水洗便所に変更する為の補助等を検討していく事が必要であると思う。
- ・空きやバンクを通して居住された方について、地域の集会や行事に参加されない等の問題が起こっている。それに関しては、空き家コンシェルジュにあらかじめ地域にはある程度のルールがあるといったことを説明してもらっておく必要があるではないか。

◎基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・基本方針②結婚・出産・子育て支援の充実の中の町内での恋活・婚活の開催につき、ただ開催するだけではなく、付加価値を付けていく必要があると思う。開催にあたり、出来るだけ定住してもらえるように、定住促進住宅とも連携した取り組み等も考えて実施していく必要であると思う。また、参加者向けに、町内での居住地として、空き家バンクの活用を案内し、空き家改修のための補助金を出す等の取り組みを検討していくのも有効なのではないか。
- ・木育について、全国でもやっているような木育をしても効果は無いと考えられる。他とは違うような木育をしていく事が必要。昔、学校が終わったら山に行き、山菜採り等を行って遊んでいた。それも、ある意味で自然とのふれあいを通じた木育であり、他ではやっていないようなことではないか。木育についてのオリジナリティを考える必要がある。
- ・学童保育について、単に子供を預かるというだけではなく、木育や教育を行うなど、他とは違う取り組みや視点を持って、行っていく必要があるのではないか。学童保育を充実させれば、女性も安心して子供を預けることができ、女性の雇用促進にも繋がるのではないか。

◎基本目標④ 地域のなかで安心して暮らし続けることができるまちづくり

- ・自主防災組織率が現在でも高い数値を示しているが、これは自治会の組織率とニアリーであるため、高い数値になっていることの確認が出来た。
- ・基本方針②みんなで支え合い安心して暮らせる地域社会の形成について、地域間でしっかりとしたコミュニティを作っていることは素晴らしいことであり、コミュニティの形成を強化することが、安心して暮らせる地域を形成するのに不可欠であると思う。
- ・地域が元気になるためには、まず子育て世代の母親が活躍出来るような取り組みが大切であると思う。
- ・地区防災計画策定率につき、全6地区における策定率は0.0%となっているが、大字単位等では、防災に関する取り決めは決まっているとの話を聞いた。全6地区ごとで地区防災計画を策定するは広範囲のため、組織として動きにくくなるという事はないか。
- ・自分達の身は自分達で守るという意識付けが大事。
- ・子供のスポーツについて、人口減少に伴い、スポーツクラブ等も少なくなってきた。今後、他地域との連携も考慮して、子供のスポーツ振興について考えていく必要があるのではないか。
- ・女性の消防団の活動回数の推進について、現在2地区ほどに初期消火のための女性消防団体等があるとの話を聞いたが、実態として活動は縮小気味であると思われる。今後、安全なまちをつくるためにも、地区ごとの女性消防組織を見直し、充実させていくことが必要であると思う。

- ・基本方針3 地域における女性の活躍推進の主要な取り組みの中に「子ども・子育て支援施策と連携し～」というところがあるが、連携ではなく、推進の間違いではないか。
- また「吉野高校木工女子部との連携により～」の部分につき、主語がない。その他文体についての確認。
- ・中学校で入学時に自分で組み立てられる机について、郷土に愛着を持つという意味では、本取り組みについて継続させるというような文言も入れてはどうか。実際、卒業後も家に持って帰って愛着を感じている方もいるとの話もあった。

(3)その他

■ワールドカフェ終了後の追加の意見確認及びワーキンググループの進捗状況の共有について。

◎事務局：

- ・皆様ありがとうございました。リーダーからの意見発表があったが、その他追加で意見があれば言っていたきたい。

◎会長：

- ・お疲れ様でした。話し足りなかったことはないか。
- ・グラフ等を入れた方がよいのではないかと感じた。数値で表現すべきところはグラフ化するのが良いと思われる。また、写真を取り入れるのも良い。紙すきや製材等の写真を入れる等、吉野をイメージできるような写真を取り入れることで、文章よりも内容が伝わりやすい事がある。
- ・数値化している箇所、基準値0 目標値0 のようなものは除いても問題無いのでは。しかし、それが課題なのであれば載せておいても良いと思う。
- ・吉野における今後の理想を実現して行くためにも、5年後の目標数値を掲げることは、大切である。
- ・吉野というブランドがあるのであれば、100年かけて、吉野の杉、檜、和紙、箸等徹底的に林業のまちというイメージをつくることも出来るのではないか。
- ・上市の商店街についても、漠然としたイメージだけでは、発展しない。具体的なビジョンに基づき、長期的な計画性も持って動くことが必要である。
- ・今後、吉野町で住む人のためにという視点に基づいて計画を考える必要がある。次世代にバトンタッチをするときに、何を伝えていくべきかということ、総合戦略の前段等を書いておくことが必要なのではないか。
- ・吉野町の歴史等について、まちの語り部になるひとの育成も必要であると思う。
- ・キーワードや言葉一つでイメージが定着するので、それらを打ち出すときには練って考える必要がある。

◎委員：

- ・数値目標につき、どれだけ目標数値に近づけていけるのか。
- ・先程の話でもあったが、地場産業ではなく、地域産業であり、吉野ならではの地域産業を考えていくことが大事であると感じた。
- ・歴史、文化をしっかりと把握した語り部の育成が大切であり、学校教育の中で伝えていくことも必

要であると感じた。

◎委員：

- ・国栖小学校の跡地につき、今後どうするかという課題があるが、話が盛り上がらない。何故かということ、以前からその件については話があったが、まとまることがなかった。
- ・そして今、南部東部振興課との話があり、今年の中に5回ほど会議を行うが、その5回で何が分かるのかという思いもある。しかし、その会議を国栖地区の皆さんに周知してもらうことにより、やる気を出してもらうに繋がるのではないかと考えている。継続して話をするのが大切であると感じている。
- ・国栖の里灯りについても、今年で5回目であるが、やっと地域に浸透してきており、楽しみにして下さっている年配の方もいる。継続することの大切さを実感している。
- ・総合戦略についても、大変なことではあるが、ビジョンを持って継続的に取り組んでいく力というものが養われていくのではないかと考えている。

◎会長：

- ・まちの道しるべについては、学芸員の方にしっかりと資料を作っていただいている。
- ・出来れば、小学校の空き教室や、公民館に今まで熱心にやってきて下さった方等の歴史を伝えるような取り組みが大事なのではないかと。
- ・小学校施設については、地元の人に関われるような施設にしていく事が大切であると思う。地域の人の、主産業や副業に組み込めるような取り組みを行っていくことが大切である。地域の拠点や木育に関する製作体験の場所にするなど、地元の人に関われるような仕組みを考えて事業構想することが必要である。
- ・自分達のまちに関する事は自分達で関わっていくとの意識も持つことが大切である。

◎委員：

- ・会議の中で残念だと思ったことは、商工会や南都銀行の方も当会議の委員として活動しているが、そういうところは、吉野町と連携して、総合戦略についても関わっていくべき団体であるということを感じている。商工会等の名称は出すべきあると思う。
- ・会長の話を聞いて、まちの景観、歴史等を念頭に、統一感のあるビジョンを持って動く事は大切であると感じるが、自らにおいては、個別の活動で精一杯な部分もある。なかなか、全体でビジョンを共有して動くという事は困難であると感じているので、まずは自分ができることをやっている。一個の事をして、全体が見えていなければ意味がないというのではなく、一つの事から全体に波及していくことも出来るのではないかという思いがある。

◎会長：

- ・推進していく方が、個別でやっていくと統一感がなくなり、結局は長続きしないもので終わってしまう。地域で将来的なビジョンを持って動くことが大切である。

◎委員：

- ・その話も分かるが、個人的にはそこまで考えが回らない部分もあるので、行政や専門家の方の手を借りて、みんなに共感してもらう必要があると思う。

◎会長：

ワーキング報告も兼ねてご意見があれば、お願いします。

◎委員：

- ・今日は、ワーキング報告はないが、ワーキングを通じて出た意見等は総合戦略（素案）の中で修正されている。
- ・木の子文庫については、9月28日で一般社団法人化したのが、今のところ何も変わったということはなく、これからの活動を検討している。
現在、助成金の申請をしているところであるが、それに関しては、まだ一次審査も通っておらず、二次審査のプレゼンが10月30日にあるとだけ聞いている。
- ・木村先生の話を通じて、不明確になったものをみんなで話し合っ、一つひとつ明確にしていくことで次に繋げていくことが大切であると感じた。

◎委員：

- ・木工振興 WG については、一度総合戦略（たたき台）を基に会議を行ったが、10月9日にもう一度会議を行う予定をしている。
- ・吉野に誰でも来てもらえば良いというわけではなく、吉野のことを好きになってくれた方が来て下さると思う。
- ・今後、50年先になるか、100年先になるかわからないが、木のある暮らしを推進するというような文言を入れておく方が良いのでは。そういう暮らしの推進が景観も作っていくことに繋がるのではないか。
- ・木を使った取り組みを支援してもらって、地元の人に情報発信していくことが必要であると考え。一年ごと着実に木のある暮らしを定着させていくことで、現在の住民もずっと吉野で住みたいと思えるようになり、町外の方も興味を持ってくれるのではないかと思う。戦略の中に木のある暮らしに関するわかりやすい文言を入れていただければと思う。

◎委員：

- ・スポーツ振興 WG では総合戦略（たたき台）に沿って出来ることはないかという話し合いを行った。
いつも高齢者のグランドゴルフ開催時には、100人程の方が来て下さり、大勢の方が来ているとの意見も聞くが、吉野町内の高齢者約3200人の内、施設入所の方、スポーツに関心のない方などを除いても、約1200人位の方が何もスポーツをされていないことになる。
- ・スポーツを通じた高齢者のまちづくりを考える上では、地域の実情をアンケート等を通じて知り、それに沿ったプログラム構成を考えていく必要があると考える。現状で満足してはい

- けない。
- ・運動会を今風にアレンジした形で復活していくことも考えている。
 - ・またテーマを持って集まるということに関しては、スポーツクラブは合スポカーニバルを行ない、新聞掲載の依頼もあった。複数のものが合同して、取り組みを行う事でより効果的になると感じた。
 - ・スポーツクラブはスポーツの振興と、まちづくりという理念を持って始まったが、それを忘れずに、年に数回しか開催していなかったことでも、開催を増やしていくことがまちづくりにも繋がっていくと感じている。

◎委員：

- ・2020年にオリンピックがあるということで、東京の自治体が民泊についての取り組みを行っているとのこと。また明日香村でも、教育旅行等で10校以上が民泊して、農業体験等を行っている。吉野山でも春の時期に関して、宿泊施設が不足するが、民泊の制度を採用すれば、地域の活性化に繋がるのではないか。

◎会長：

- ・ありがとうございました。民泊に関しては、クリアすべき課題があるが、地域内での緩和を通じて特区の提案等を行っていくことも提言の一つであると感じている。
- ・取材に関しては、こちらから計画性を持って自ら発信していくことも考えて行動する必要がある。

◎オブザーバー：

- ・地方戦略の策定に関しては、吉野町は進んでいる。WG等に取り組みについても積極的に行っており、最先端を走っていると感じるので、自信を持って取り組んでいてもらいたい。

■その他連絡事項等

◎事務局：

- ・次回会議が最終のため、ご意見があれば10月15日までに意見をいただければ、その内容も盛り込む形で総合戦略の最終案を検討していく。
- ・10月9日木の子文庫にて、現在までのWG報告や来年度やっていきたいこと等、町長を交えて、お話ししてもらう予定であるので、WGリーダーの方は参加をお願いします。

◎事務局：

次回開催日時 10月22日 午後1時30分～